

科目名			産業保健経営学特論		
科目責任者		森 晃爾	(産業保健経営学 教授)		
担当者		永田 智久	(産業保健経営学 准教授)		
開講時期:		1年次後期	単位数:		4 単位
			時間数:		90分× 30 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>企業内で産業保健活動を行う上での基盤となる企業そのものと、経営手法の産業保健への応用の基本を理解する。経営手法としては、主に、マネジメントシステム、マーケティング、リスクマネジメント、会計を取り上げる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 企業および企業経営の基本を説明できる。</li> <li>2) 企業の中での人材価値、人材育成、リーダーシップについて説明できる。</li> <li>3) 多職種による産業保健体制の構築と品質管理の手法を説明できる。</li> <li>4) 産業保健サービスの外部委託とサービス機関の運営について説明できる。</li> <li>5) 中小企業の特徴を踏まえて産業保健サービスの提供について説明できる。</li> <li>6) 労働安全衛生マネジメントシステムの基本と文書化を説明できる。</li> <li>7) 職域におけるリスクマネジメントについて説明できる。</li> <li>8) 労働安全衛生マネジメントシステムを利用した、産業保健活動の継続的改善手法を説明できる。</li> <li>9) 労働安全衛生マネジメントシステムにおける内部監査の意義・方法を説明できる。</li> <li>10) 健康経営の背景および基本が説明できる。</li> <li>11) 健康経営の推進に必要な体制および組織要因について説明できる。</li> <li>12) 健康投資管理会計の概要と用いられる指標を説明できる。</li> <li>13) 産業保健サービスに対するマーケティング戦略について説明できる。</li> <li>14) 産業保健活動に必要なコスト構造および集計手法を説明できる。</li> <li>15) 企業の社会的責任の位置づけとしての産業保健の意義を説明できる。</li> </ol>					
● 評価方法		討議50%、発表50%で総合評価する。			
● 参考文献		成果の上がる健康経営の進め方(労働調査会)、産業保健担当者のための経営学入門(労働調査会)、産業保健スタッフのためのISO45001(中央労働災害防止協会)、健康会計入門(法研)			

● 授業スケジュール

回	項目	内容	担当教員
1・2	企業と経営	企業の成り立ち、企業経営の基本	森
3・4	災害産業保健組織	企業活動としての産業保健	森
5・6	産業保健サービスの外部委託	労働衛生機関、第三者評価、多職種連携	永田
7・8	中小企業と産業保健	中小企業の特徴、産業保健活動の提供手法、産業保健センター	永田
9・10	マネジメントシステムの理解	マネジメントシステム、外部認証	森
11・12	OHSMSの文書化	基本方針、システムマニュアル、手順書	森
13・14	リスクアセスメント	リスクアセスメント	森
15・16	OHSMSにおける大きなPDCA	基本方針、目標、計画、評価、改善	森
17・18	OHSMSにおける監査	内部監査、監査報告書	永田
19・20	健康経営概論	健康経営、健康経営優良法人、PDCA	永田
21・22	健康経営の体制および組織要因	リーダーシップサポート、Chief Health Officer	永田
23・24	産業保健のマーケティング戦略	産業保健マーケティング、チームビルディング	森
25・26	健康投資管理会計ガイドライン	プレゼンティーズム、ワークエンゲージメント、無形資源	森
27・28	産業保健活動のコスト	コスト集計表、直接経費、間接経費、投資	永田
29・30	ESG・SDGsと産業保健活動	企業の社会的責任、CSR報告書と産業保健	永田